

平成29年第4回  
9月1日から高山市議会定例会

左記の日程で9月定例議会が開かれま  
す。今回の議会の重要な点は、平成28年  
度の決算が議論されることです。決算では、  
市税が市民のくらしに有効に使われたの  
か、どんな効果があったのか、税金のムダ  
使いは無かったのか市政全般にわたって質  
疑されます。

共産党市議団は、税金の使い道を、市民  
のくらし、とりわけ格差や貧困が広がる中  
で、どれだけでも、くらし応援へ予算配分  
すべきだと主張してきました。国保料の引  
き下げ、子育て支援として給食費の負担軽  
減、35人学級の達成、働く人の賃金引き  
上げ、防災無線の戸別受信機の無料設置、  
介護保険料・利用料の減免措置の拡充等を  
求めてきました。また、行政改革の名によ  
る民営化、現場職員の削減をしないことな  
ども取り上げました。

決算審議では、総括的にこれらの努力が  
どれだけされたのか問いたですることになり  
ます。

なお、一般質問は、13日、15日、そ  
の順序は①市議会公明党②無党派③日本共  
産党市議団④高山市政クラブ⑤創政クラブ  
の順です。くわしい日取りは、6日（一般  
質問通告締め切り日）の午後に決定します。

9月議会  
予定

1	金	本会議 (初日)
7	木	総務環境委員会 福祉文教委員会 産業建設委員会
13	水	本会議 一般質問
14	木	本会議 一般質問
15	金	本会議 一般質問
20	水	総務環境委員会
21	木	福祉文教委員会
22	金	産業建設委員会
25	月	予算決算特別委員会
26	火	予算決算特別委員会
27	水	予算決算特別委員会
28	木	本会議 (最終日)

下呂市が、中学校の学校給食費軽減を決断

下呂市は8月29日に平成30年4月から  
中学校の学校給食費を半額に軽減すること  
を発表しました。

対象は、部活活動等による保護者負担の多い中  
学生とし、医療費支援をはじめとする子育て支援  
対策とのタイアップによる少子化対策の一助とな  
るようとしています。

○軽減内容

対象 …中学生

軽減率…給食費1食につき2分の1の補助

○基金の名称は

下呂市子育て応援基金

○基金の額

2億円 (推計では約10年分)

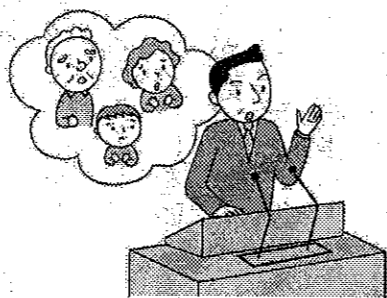
○参考

中学校給食費2分の1軽減

1食300円 給食実施日 200日

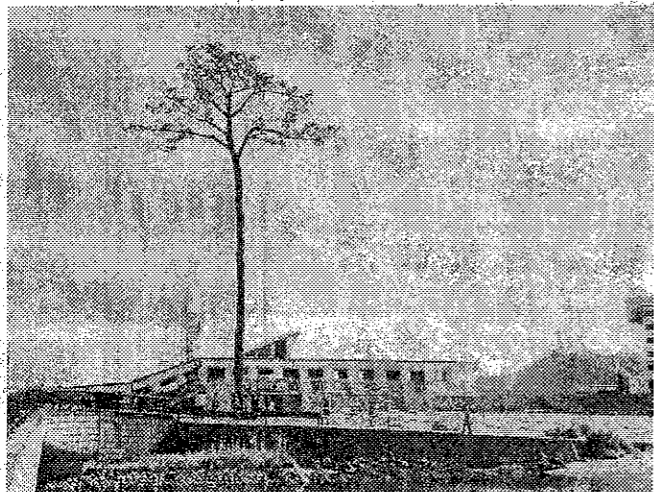
一人当たり年間約6万円の内3万円の軽減

これは下呂市長の公約  
を実現させたものです。  
党下呂市議員団は、公約  
実現を迫ってきました。  
高山市でも、ぜひ子育  
て支援・少子化対策とし  
て下呂市以上の取り組み  
を早く実現させたいです。



# 「民主主義を生きる」

2017. 日本母親大会 in 岩手 8/19-20 に参加して 田中和美さん（高山市）の手記を紹介합니다。



## 一年前から参加を決意

昨年、金沢での母親大会の最後、「来年は、岩手県です！」と司会者が言われると、会場が（わあ〜）と大きくどよめきました。その中で（よし、私も、来年、岩手へ行くぞ）と決意し、そのための費用を貯めようと100円玉貯金を始めました。500円玉はなかなか貯まらない、と経験済。100円ならできそう、一か月で3千円、一年間で3万6千円。これなら大分費用の足しになるだろう・・・ウキウキした気分が始まりましたが、実際に貯まったのは1万6千円ほどで、がっかりでした。これは、100円を貯金箱に入れることを、私がいかにわすれた日が多かったか、というこのあかし。でもこのおかげで、岩手県では、「あのお金があるから大丈夫」とほしいうものを買うたびにささやく私がいました。

## 被災地・陸前高田市で分科会

さて、私は、現地分科会に参加しました。たくさんのお母さんがあり、抽選で入れてもらえ、とても幸運でした。県都盛岡市から大型バスで陸前高田市へ向かいました。（バスは7台も）

バスの中から見る風景は、更地が広がっているところ、盛土が連なっているところ、あちこちに重機やクレーン車などが見えました。ある場所で、土砂を、川を挟んで向こう側にたくさん移さなければならぬことがあり、なんと、ベルトコンベヤーを設置して全部移してしまっただけです。ダンプカーで回りを道にして運ぶより、日数も費用も少なく済んだと話してくださいました。

高田松原は白砂青松の名勝の地で7万本の松林でしたが、その中でたった一本だけ残ったのが奇跡の一本松です。現地で実物を見て、（健気・・・）と胸にせまるものがありました。この松は海水により“枯れ死”してしまいましたが、レプリカとして残されています。

被災地では、津波の直撃をうけ、建物の外側だけ残ったというものがあります。それを、思い出すのはいやだから、取り壊してしまおう、いや、地震や津波災害の恐ろしさを忘れないためにも、残しておこう。という二つの意見があるそうです。それらを、みんなで話し合っって、残すものは残していこう、と決めていかれたそうです。

19日午後からは戸羽市長さんの講演でした。あの津波で奥さんをなくされていきますが（気仙川の河口から9kmも遡ったあたりで発見されたそう）明るくてエネルギー感を感じた方でした。開口一番、「情報の取り扱い方を一番反省している」と言われ驚きました。「岩手県が地震津波のときの、シミュレーションをしたのがあり、地図にもおろして情報を与えられて、そのマックスだけを頭に入れていた。しかし、それ以上のことが起こった時に、対応できないようになるということ。まだ、復興半ばだが、おとなたちが、悲しいけど、頑張っている姿を見せること。人には底力があるということ。普通であるということが幸せ。そういうことに気がついてほしい。」と子どもたちへの思いも語られました。他にも沢山話してください、ここに全部書き出すことは、私の能力オーバーで無理なので、最後のひとつ。「陸前高田をパワースポットにしたいとおもっています。あんなにポロポロだったのに、みんなの力で、こんなになれるんですね。」と。

## 「歴史をひもとく」を心に！

「民主主義を生きる」という題は、戸羽市長さんやバスの中の司会者・助言者のかたたちのお話を思い出して、盛岡のホテルで早朝眠れなくなり、考えているうちに、この言葉がうかんできました。大変な悲しみ、困難のなか、みんなで話し合いながら、丁寧に、復興を進めていっている大人たち。このような大人たちの姿をみて育つ子どもたちは幸せです。陸前高田から、すばらしい子どもたちが、たくさん育っていくだろうとおもいます。バスの中で司会をしてくださった八幡さんが繰り返した言葉、次の言葉を忘れないようにし、実践していきたい、と思っています。

『土地の災害を思うとき、その土地の歴史をひもといて、よく知ることが大切。昔の歴史のことを忘れないためにも』